

令和6年度第1回文化財調査委員会 会議録

令和6年6月13日（木） 滝沢市役所 2階 大会議室

開始時刻 15時00分

事務局進行：文化振興課長 岡田 久美

発言者	内容
(事務局) 岡田課長	<p>本日の会議は、委員5名中5名のご出席を頂いております。 滝沢市文化財調査委員会運営規則第3条第2項の規定により、委員の半数以上が出席しておりますので、本日の会議が成立することをご報告申し上げます。</p> <p>ただ今から、令和6年度第1回滝沢市文化財調査委員会を開催いたします。</p> <p>教育長 太田 厚子よりご挨拶申し上げます。</p>
太田教育長	(挨拶)
(事務局) 岡田課長	<p>それでは、第1回の会議でございますので、改めて委員の皆様のご紹介と教育委員会事務局の紹介をさせていただきます。 次第の裏面をご覧ください。</p> <p>(委員、職員を名簿順に紹介)</p>
(事務局) 岡田課長	<p>次に、議事の進行であります。滝沢市文化財調査委員会運営規則第2条第4項の規定によりまして、委員長が会議の議長となっておりますが、今回の議案第1号により委員長が選任されるまでの間、私が進行を務めさせていただきます。</p> <p>議案第1号 委員長及び副委員長の互選 についてでございますが、自薦・他薦など選任方法についてご意見を頂戴したいと思います。</p> <p>(自薦・他薦等の意見なし)</p> <p>それでは、事務局から提案してもよろしいでしょうか。</p>

<p>(事務局) 岡田課長</p>	<p>事務局といたしましては、引き続き委員長を光井委員に、副委員長を越谷委員にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p> <p>異議なしとのことですので、光井委員長、越谷副委員長、引き続きよろしくお願ひいたします。</p> <p>それでは、お二人から挨拶をいただきたいと思います。</p>
<p>光井委員長 越谷副委員長</p>	<p>(挨拶)</p>
<p>(事務局) 岡田課長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>なお、会議録の署名につきましては、委員長と委員1名から署名いただくこととなっております。</p> <p>前は上白石委員にお願いしておりましたので、今回は松本委員にお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか？</p> <p>(異議なし)</p> <p>では、松本委員よろしくお願ひいたします。</p> <p>会議録作成後に日程調整の上、署名をいただければと思いますので、よろしくお願ひいたします。</p> <p>それでは、これからの進行は光井委員長にお願いいたします。</p>
<p>光井委員長</p>	<p>それでは、議事を進めさせていただきます。</p> <p>報告第1号 令和6年度滝沢市文化財事業の進捗状況について事務局から説明よろしくお願ひします。</p>
<p>(事務局) 佐々木主査</p>	<p>(1) 文化財関係 について資料に基づき説明</p>
<p>(事務局) 井上総括主査</p>	<p>(2) 埋蔵文化財関係 について資料に基づき説明</p>

光井委員長	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>では、最初に（１）の文化財関係について、皆様からご質問・ご意見がございましたらお願いいたします。</p>
越谷副委員長	<p>田村神社のスギの件で、樹木医さんも交えて説明されたとのことで、今後の方針について、支柱を設置するか木の上の方を切り落とすかなど、所有者さんのご意向はある程度見えてきているのでしょうか。</p> <p>また、仮にもし切ってしまったらすると文化財としてはどのようなことになるのか、見込みというか、仮の話なんですけれども教えてください。</p>
(事務局) 佐々木主査	<p>今のところ、支柱設置と断幹のどちらになりそうか、というのはまだ所有者さんから話は出ていないところです。</p> <p>また、木を切ることにした場合、安全なところまで切るとなれば樹高30mくらいのところ10mしか残らないということで、やはり枝や葉の部分が無くなってしまうため、正直なところ、維持していくのはなかなか難しくなると思います。</p> <p>ただ、全国の事例を見ると、幹だけ・切り株だけであっても、その大きさや年輪などにより老樹・大樹であったということで指定を続けているところもあるようです。文化財の価値をどのように判断するかも今後調査・検討が必要だと思っています。</p>
越谷副委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>切ってしまう場合には、切り方によってその価値をここで審議することになるのでしょうか。</p>
(事務局) 佐々木主査	<p>そうですね。切った上で文化財の価値があるかというところを、所有者さんの意向も踏まえつつ検討することになります。文化財を維持保全していく面と、周りの安全を考慮しなければならない面の両方から考えていく必要があると思っています。</p>
光井委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>氏子さんと協力・情報交換しながら、氏子さん任せにするのではなく支援策なども検討していくという形で、歩み寄りながら進めていきたいと思います。</p>

光井委員長	ただ、最近は気象状況がわからなくなってきた、強風が吹いたりすることもあるので、安全管理が第1優先ということで、最終的には氏子さんが判断されるということですね。
(事務局) 佐々木主査	はい。
光井委員長	それから、何か支援策はあるんですか？
(事務局) 佐々木主査	支柱設置の場合は、文化財を維持していくための補助金を使えるかもしれないですし、切ってしまう場合、文化財の指定をどうするかによって、文化財とは異なる趣旨の補助金でも使えるものがないかを探している状態です。
光井委員長	<p>そういう方向で、進行形で探してみている、ということですね。</p> <p>そのほか、(1)の文化財関係について、皆様からご質問・ご意見ございませんでしょうか。</p> <p>では、私から1つ。チョウセンアカシジミの卵が発見されていて、すごく嬉しい感じがするんですけども、現状維持しているのか減っているのかなど、調査結果の評価はどうなりますでしょうか。</p> <p>また、かつては県の中でチョウセンアカシジミの連絡協議会のようなものがあつたと思うのですが、今はどうなっているのか、わかっているかお聞きしたいです。</p>
(事務局) 井上総括主査	<p>連絡協議会についてですが、宮古市が事務局をやっていますが、震災からそのまま中断している状況です。宮古市でも今後どうするか検討しているようです。</p> <p>卵の状況は、正確なカウントは難しいんですけども、数十年前はやはりもう少し多かったと思われま。もっと簡単に見つけられる卵の量で、400～500くらいでしたが、今は大体200～300で推移していると思われま。数十年前に比べると減少傾向ですが、ここ数年で極端に減っているわけではないという状況です。</p>

<p>光井委員長</p>	<p>ありがとうございます。 そのほか、皆様、文化財関係でご質問・ご意見ございませんでしょうか。</p> <p>私からもう1つ、民俗芸能保存伝承のことについて、色々と参加する場・発表の場を設けているのは刺激になってとてもいいと思うんですけども、衣装とか消耗品などの経費については、各団体会費を集めているのでしょうか。市や県、あるいはほかの団体からの援助ももらって運営しているのか、そういったことに対して今なにか課題はないのか、というあたりを教えていただければと思います。</p>
<p>(事務局) 佐々木主査</p>	<p>基本的に、各団体会費やイベントへ出演の謝礼金などにより必要経費を賄っている状況です。各団体が直接文化振興事業団などに申込している可能性はありますが、現時点で、市を通して補助等を受けている団体はありません。</p> <p>市の郷土芸能まつりに出演していただくにあたっては、市の予算で各団体へ謝礼をお支払いしています。</p> <p>今年度の郷土芸能保存団体協議会の総会で、物価高騰の影響を受けて徐々に運営が厳しくなってきたという声が上がって、今後我々も何かできることはないか考えていく必要があるな、という話をちょうどしているところでございました。</p>
<p>光井委員長</p>	<p>はい。ありがとうございます。 今少しずつ大変な状況になってきたというのであれば、文化振興事業団などの補助事業について、資料を収集して情報提供してあげたらいいのかなと思いますが、いかがでしょうか。</p>
<p>(事務局) 佐々木主査</p>	<p>県や文化振興事業団などから市にメール等で情報提供があれば、その都度、郷土芸能保存団体協議会の皆様に情報提供するようにしています。</p> <p>ただ、今までやったことがなくて難しそうだなという思いが郷土芸能保存団体側にもあつたりすると思いますので、こちらでも補助の条件や申請に必要な書類などを読み解きながら、もう少し詳しくお知らせしたり、もし申請希望がある場合は支援できるようにしていきたいと思います。</p>

<p>光井委員長</p>	<p>ありがとうございます。よろしく申し上げます。 そのほか、皆様からご質問・ご意見ございませんでしょうか。</p> <p>なければ、次の（２）埋蔵文化財関係に進みます。 皆様からご質問・ご意見ございませんでしょうか。</p>
<p>越谷委員</p>	<p>前にも少しお聞きしたかもしれませんが、過去の調査写真のデジタル化を進められていると思うんですけども、いずれはホームページにアップロードして見られるようにして下さると伺っておりましたが、その進捗状況がどうかということを教えてください。</p> <p>また、提案ですが、先ほど埋蔵文化財センターにお邪魔させていただいて、埋蔵文化財の調査をした場所や、発掘されたものの時代などを色分けしてシールが貼ってある地図があって、大変良いことだと思いました。例えば、調査写真を公開する際に、そういった地図があって、そこをプロットするとその調査写真と解説が出てくる、みたいな形になると見ていて楽しいのかなと思います。</p> <p>あと、いま埋蔵文化財センターで使われているのは等高線があるだけの普通の地図なんですけど、レリーフ図みたいにしてあげると、岩手山があって、西側には活断層の隆起した山があって、こちら側に平野が広がっていて…という世界の中で、埋蔵文化財の調査地点が偏らざるを得なかった地理や地質などの自然条件的なものわかって楽しいと思います。</p> <p>ホームページに写真を掲載したり埋蔵文化財センターの図面を更新するような時に、少しご検討いただければと思い、ご提案申し上げました。</p>
<p>光井委員長</p>	<p>はい。ありがとうございます。事務局の方でよろしく申し上げます。</p>
<p>（事務局） 井上総括主査</p>	<p>進捗状況ですが、全体の10分の1くらいです。白黒写真もあって、その調整に時間がかかっています。あと大きいフィルムもあって、問題はスキャンするだけではなく、それを1回エクセルでデータ化して整理するのに時間がかかっています。</p> <p>ホームページ掲載も、ちょっとまだ時間はかかりますが、いずれはダウンロードできるような形にまでいければいいなと思っています。</p>

<p>光井委員長</p>	<p>はい。ホームページでの公開を目指して、長いかもしれないですけど、よろしくをお願いします。 皆様からそのほかにありますでしょうか。</p>
<p>上白石委員</p>	<p>色々な企画をやっていてご苦労なことだと思います。</p> <p>歴史体験事業についてお尋ねしたいのですが、団体が1件入っていましたが、これはどういった団体でどのような経緯でこの企画を知ったのか、これは個人についても、それから出前講座についてもお聞きしたいのですが、こういったことが行われているということを知っている市民の方たちはどういった機会で見ることができ、体験件数を増やすためにはどのようなアピールの仕方をこれからしていくのか、ということをお尋ねします。</p>
<p>(事務局) 井上総括主査</p>	<p>団体は、学校関係や子ども会関係が多いです。学校をはじめ市内の各施設に出前講座のチラシを配ったりしています。また、ホームページでも周知しています。</p> <p>あとは、小学生が学校の社会科見学で来た時に体験できることを知って、後日親御さんと一緒に来て体験したり、別の博物館に置いてある当館のチラシを見て体験しに来てくださったり、ということがあります。</p> <p>今年に入ってからは、群馬県の親子がいらっしゃって埴輪を作ったこともありました。その方は、たまたま親戚が滝沢の方で、親戚の方から聞いて、ということでした。</p> <p>今後ともチラシを配付したりホームページで周知していきたいと思っています。</p>
<p>光井委員長</p>	<p>そのような周知をするように引き続きお願いできればと思います。</p> <p>私も昔、孫と一緒に行って、私は埴輪を、孫は土器を作ったんですけども、とても親切に褒めながら教えていただいて、孫もとても満足して、いい思い出になっています。</p> <p>そこで、作り方を教えてくださる方とか見学者がたくさん来た時に対応してくださる方の人数は、今の状態で大丈夫なのか、職員体制の現状と課題についてお話いただければと思います。</p>

<p>(事務局) 井上総括主査</p>	<p>現況では、職員2名と会計年度任用職員3名で、土日も開館しているのでシフトを組んで対応していき、今のところはこの体制でうまくいっています。ただ、減ってしまうと困ります。今の体制であれば、どうにかやっていけると思います。</p>
<p>光井委員長</p>	<p>見学した時に希望すれば解説員の方が出てきて解説して下さると思うのですが、そのような対応が可能な方がいらっしゃるんですね。</p>
<p>(事務局) 井上総括主査</p>	<p>会計年度任用職員の中には新人の方もいますが、ベテランの職員が教えながらやっている形です。教育普及関係や展示の解説はできるようしています。</p>
<p>光井委員長</p>	<p>ストーンサークルの見学をしに子ども達が来た時には井上さんが対応されているんですか。</p>
<p>(事務局) 井上総括主査</p>	<p>私だけでなく、会計年度任用職員さんもやったりしています。小学生100人規模ですと、2チームに分けて、ストーンサークルを見るチームと施設内を見るチームを入れ替え戦で対応しています。</p>
<p>光井委員長</p>	<p>はい。お疲れ様です。ありがとうございます。 では、そのほか皆様からご質問・ご意見ございませんでしょうか。 では、なければ、報告第1号は終わりにしたいと思います。 報告第2号 文化財の現状変更申請について ということで、事務局からお願いいたします。</p>
<p>(事務局) 井上総括主査</p>	<p>現状変更等許可申請書に基づき説明</p>
<p>光井委員長</p>	<p>はい。ありがとうございました。</p>

<p>光井委員長</p>	<p>今、2件の現状変更等許可申請書が教育委員会宛に提出されていますけれども、これについて皆様からご質問・ご意見ございませんでしょうか。</p>
<p>渡辺委員</p>	<p>まず1つ目（河川工事によるカワシンジュガイの移植）の方ですけれども、移植先は今回も下流側だと思うのですが、移植した後の状況がどうなっているかをモニタリングした方が良いなと思っています。</p> <p>2年間私も参加させていただいて、工事が完了した場所を見ると、流速が以前より速くなっているような気がして、そうすると下流の工事していない場所の河床の砂や礫がどんどん流されていくんじゃないか、とちょっと心配しています。緩衝材料がなくなってむき出しになるとカワシンジュガイは定着できませんので、下流に移植した貝がその場に残っていても転がりながらどこかに定着すればいいのですが、そのような場所がちゃんとあるのかということを確認した方がいいと思っています。</p> <p>2つ目（河川工事に伴う移植を前提とした生態調査）に関しては、この下流部のあたりで再生産ができていないかどうかを確認しないといけない状況なので、「これくらいの貝の大きさと大体何年」という曖昧な予想ではなく、実際に貝を切って年齢を測定する調査は必要だと思います。</p> <p>本州ではおそらく、調査の例がないと思います。今まで調査されているのは北海道で行った実験の研究例で、水温が違えば成長の仕方も違うので、本州でのデータというのは大事なことだと思います。申請された採取数も、これが絶滅に繋がるなどという心配はないレベルですので、問題ないと思います。</p>
<p>（事務局） 井上総括主査</p>	<p>すみません、1件目の仁沢瀬川の方ですけれども、逆質問のようになってしまって申し訳ございませんが、今回移植するカワシンジュガイについて、例えばマーキングのようなことはできるのでしょうか。</p> <p>そうすれば、追跡調査する際に移植した貝がどのあたりに定着しているのかわかるかと思うのですが、マーキングができるかできないか、私も気になっておりました。</p>

<p>渡辺委員</p>	<p>実は、別の工事の場面で、そこの移植を担当した会社の方が、塗料によるマーキングと貝に少し傷を付けてナンバリングするという2つの方法を試してみたようですけれど、それが取れてしまったのか、全部流されてしまったのかは不明ですが、再捕獲してみたけどわからなかったということで、その時はうまくいっていませんでした。</p> <p>ただ、文献によってはそのような方法で回収率から何%が残存している、というのをしっかりとやった例もあるので、理論的には何かを塗ったり貝を削るなどでできるようです。</p> <p>ナンバリングをするのはちょっと厳しいですけども、全体の何割かをマークしておいて、マークしておいたものが何割残っているかで全体の残り具合を推測するということはできると思います。河川を汚さないよう、問題のない範囲で少しテストしてみるといいかなと思います。</p>
<p>(事務局) 井上総括主査</p>	<p>では、今年マーキングしてみて、例えば下流域200m範囲の中にどれだけ残っているかなど、追跡調査をしてみたいと思います。</p> <p>あとで何か良いマーキング方法がないか相談しながら、準備するようにします。</p>
<p>光井委員長</p>	<p>カワシンジュガイのことについて、YouTubeを見ると渡辺先生が「カワシンジュガイは100年くらい生きるんですよ」「岩手県に多いですが、その中でも滝沢はすごいですよ」など色々なお話をされていて、そのように貴重な環境があって私たちは共存しているんだなと思います。</p> <p>融雪剤の影響、水温の上昇、ヤマメの減少などの話を聞きますが、今の環境はどうか、それから、再生産できているのか、どういうアプローチの仕方があるのかということを含めてお話していただければ参考になると思うのでよろしくお願いします。</p>
<p>渡辺委員</p>	<p>はい。去年の移植の際に、大きさ1cm前後のわりと最近繁殖した貝が200を超える数見つかりまして、なかなかこれだけの数繁殖している川というのは今聞かないんですね。</p> <p>2件目の申請の木賊川は、かなり密集しているところで同じ調査をしてもあまり小さい貝は出てこないのですが、この移植場所に関しては、大きい貝を採るとその周りの小さい貝が砂の流れと一緒に流れ出て見つかるという感じで、再生産の場所としてはかなり良い場所でした。</p>

<p>渡辺委員</p>	<p>そこを工事しなければならなかったということは残念ではありますが、川の状態としては、それだけの再生産があったということは、まずカワシンジュガイが健全な状態にいる、それからカワシンジュガイが寄生するヤマメもちゃんという、そして小さい貝が定着できるような河川環境、砂であるとか水質に関しても維持されている、ということの証拠ではあったかなと思います。</p> <p>これだけの川でそのポイントしか再生産できる場所がないということはありませんので、どこかでちゃんと再生産が行われていると思います。今回の工事の中で、そういった場所がいくつか手をつけずに残されますので、その場所で再生産がちゃんと行われていけばいいというのが今のところの希望的観測です。</p> <p>今のところは良い状態で、工事場所の下流にもそういう場所はある、そこから再生産していくといずれ上流も回復しますので、今後うまくいくかどうかというのは見守っていくべきだと思います。</p> <p>もし何か問題があれば、少し手を加える、例えば、川の流れが速すぎるのであればその対策をする、ということも将来的には必要になるかもしれないと考えています。</p>
<p>光井委員長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>渡辺委員さんと相談しながら事務局の方でも進めていただければありがたいです。</p>
<p>(事務局) 井上総括主査</p>	<p>もう1つ質問なんですけれども、2件目の申請の生態調査の採取個体数については問題ないということによろしいでしょうか。</p>
<p>渡辺委員</p>	<p>結局、どれくらい残せば大丈夫かというのは、実は誰にもわからないところではあります。木賊川の推定個体数については、漠然とした数字ですが8千から1万ぐらいと考えているので、8千分の60が大きいのか小さいのか、というところまでして。ただそれは、上流部だけの判断で8千でしたので、今回調査を行う下流部にもいることがわかってきて、実は木賊川にはもっとたくさんの個体があったということで。しかも下流の方では小さい貝も見つかっているということは、むしろこれからの再生産場所は下流側だとすると、もう少しこれから増えていくのかなと思います。</p>

<p>渡辺委員</p>	<p>現地の個体数がどれくらいか、申請書には1か所あたり10個採取とあるんですが、採りきってしまうほど採取するというわけではないと思いますので、状況を見ながら採取するのであれば問題ないと思います。</p> <p>また、調査場所の上流に木賊川広域河川改修事業において改変が予定されている場所があり、この場所に遊水地を作るとこの川はなくなってしまって、代わりに水路を別に付け替えることになるので、この部分にカワシンジュガイは数千個あるんですが、いずれ移植しなければなりません。</p> <p>今回の調査で良い場所であることがわかれば、これらの場所が移植先の候補となり得ます。仮に今回の調査でちょっと減ってしまったとしても、いずれその上流から別の個体を導入することもできると思いますので、その辺も含めると、今回60個体採ることが木賊川の個体群に深刻なダメージを与えるということは心配しなくていいだろうと判断しています。</p>
<p>(事務局) 井上総括主査</p>	<p>わかりました。ありがとうございます。それであれば、調査結果について情報提供してくださると申請者もおっしゃっていましたので、そのまま教育委員会議にも諮りたいと思います。</p>
<p>光井委員長</p>	<p>はい。では、文化財の現状変更について、そのほか皆様からご質問・ご意見ございませんでしょうか。</p> <p>では、ないようですので、この2件の現状変更申請については委員の皆様で異議なしということで、承認する形で進めてよろしいですか。</p> <p>(異議なし)</p> <p>はい。ありがとうございます。貝の状態を見守りながら移植作業を進めて、モニタリングの方も具体的に進めていく形でお願いいたします。</p> <p>おそらく滝沢市のカワシンジュガイの資料が色々なところで生かされてくる、貴重なデータになると思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。</p> <p>では、今日予定していました議案については終わりました、そのほか皆様から何かございますでしょうか？</p>

<p>(事務局) 井上総括主査</p>	<p>すみません、事務局から1点。以前お話した土地台帳の件で、再度調べましたら、明治・大正期のものもありました。 税務課から移管された時の話を当時の担当者に確認したところ、税務課で処理をデジタル化する際に、貴重なものだからということで、教育委員会で一式引き取ったということでした。</p>
<p>光井委員長</p>	<p>はい、ありがとうございます。そのほか、ないでしょうか。 ないようですので、今日の議事を終了いたします。事務局にお返しいたします。ご協力ありがとうございました。</p>
<p>(事務局) 岡田課長</p>	<p>光井委員長、ありがとうございました。 それではこれで、令和6年度第1回文化財調査委員会議を終了させていただきます。ありがとうございました。</p>

閉会時刻 16時10分